

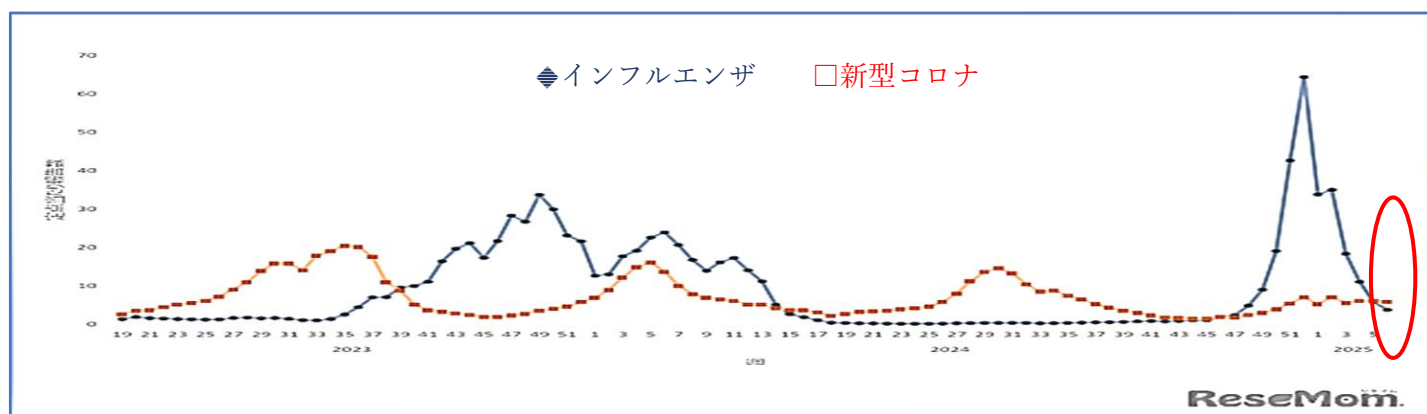
# ICT ニュース 2025/2 月号

2025/2/18 発行 ICT/感染管理委員会

県内第 6 週の感染状況においては、インフルエンザが警報レベルを解除され、新型コロナは少しずつ減少傾向にあり、報告数の多かった疾病順は 1) 新型コロナ、2) 感染性胃腸炎、3) インフルエンザとなりました。厚生労働省は 2025 年 2 月 14 日、2025 年第 6 週(2 月 3 日～9 日)のインフルエンザ発生状況を発表しました。全国の定点あたり報告数は 3.78 人。全都道府県が 2 週連続で減少し、沖縄と新潟を除く 45 都道府県が 10 人未満の報告数となり、インフルエンザウイルスの検出状況を見ると、直近 5 週間(2025 年第 2 週～第 6 週)は AH1pdm09 が 86%、AH3 亜型が 10%で A 型が大半を占めているそうです。今後の推移は不確定ですが、例年の傾向として B 型のウイルスが増加する可能性もあるため引き続き動向に注意したいとしています。



## ●インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の定点あたり報告数の推移(第 6 週)



## ●梅毒感染者が増加傾向

性感染症の一つである梅毒の感染者が増えています。特にこの 10 年ほどで急増し、2010 年度に比べて 2022 年度の患者数は約 20 倍になり女性の感染者が増加しました。梅毒トレポネーマに感染することによりおこる全身性疾患です。感染すると 2～3 週間後からリンパ節炎や皮膚症状が出ます。ペニシリンなどの抗生物質が有効ですが、治療しないと症状は段階的に進行し最終的には中枢神経まで侵されます。

増加理由は、①スマートフォン普及による性の多様化 ②LGBTQ による性の多様化 ③ピル(経口避妊薬)使用のハードルが低くなったこと、HIV エイズ治療の進化によるコンドームの非装着

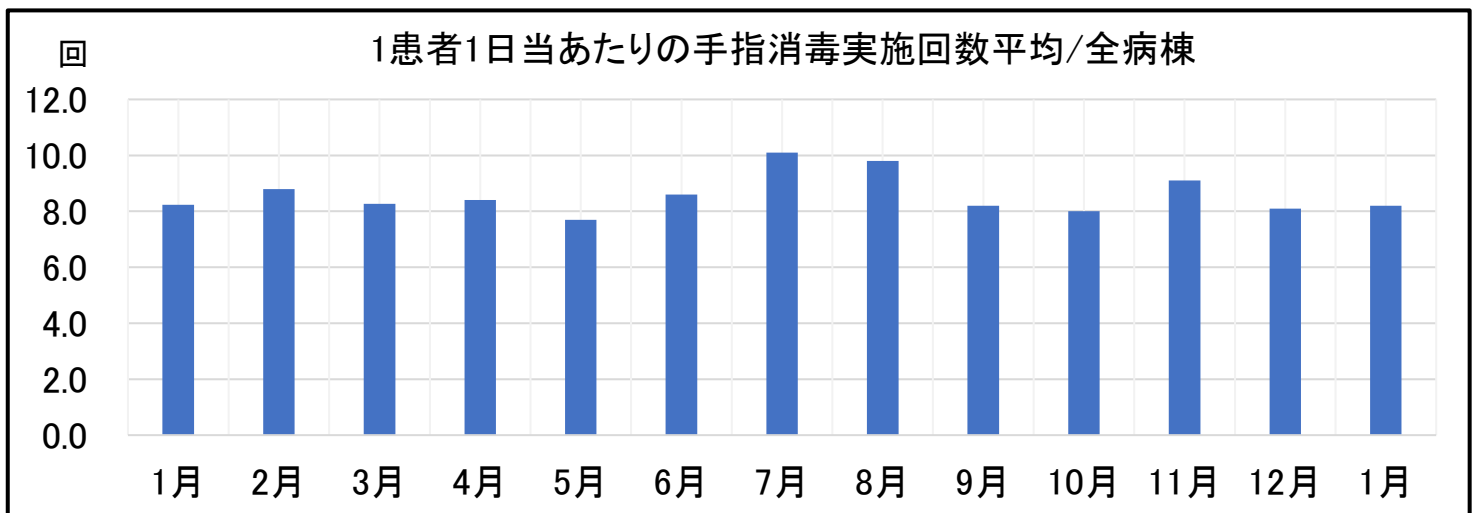
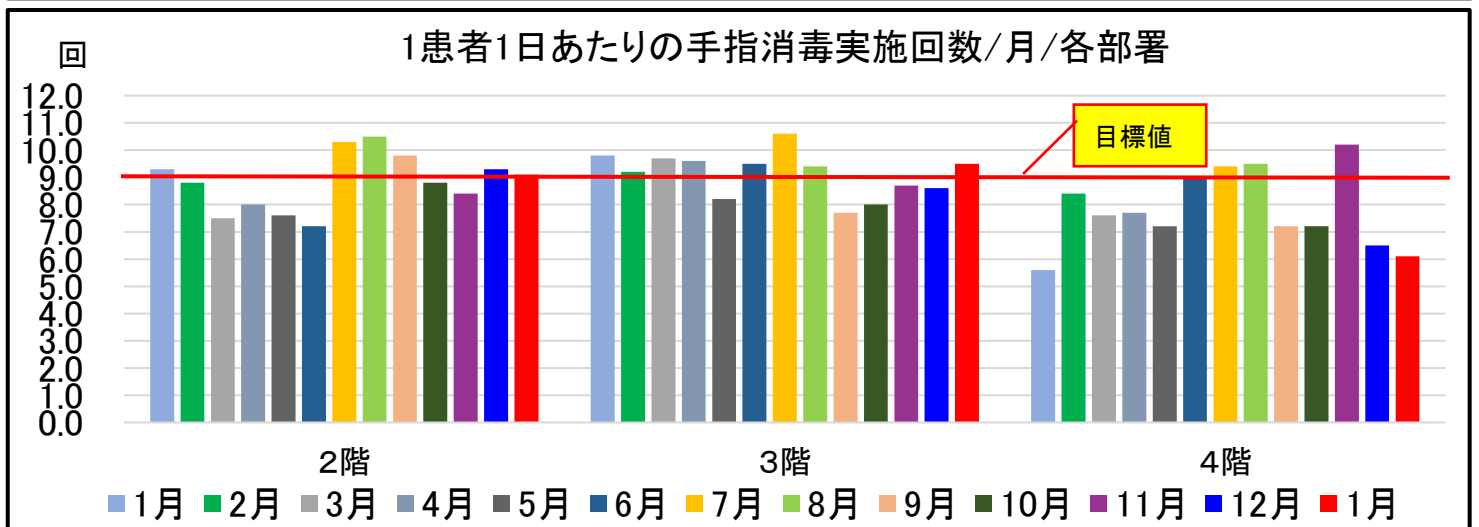
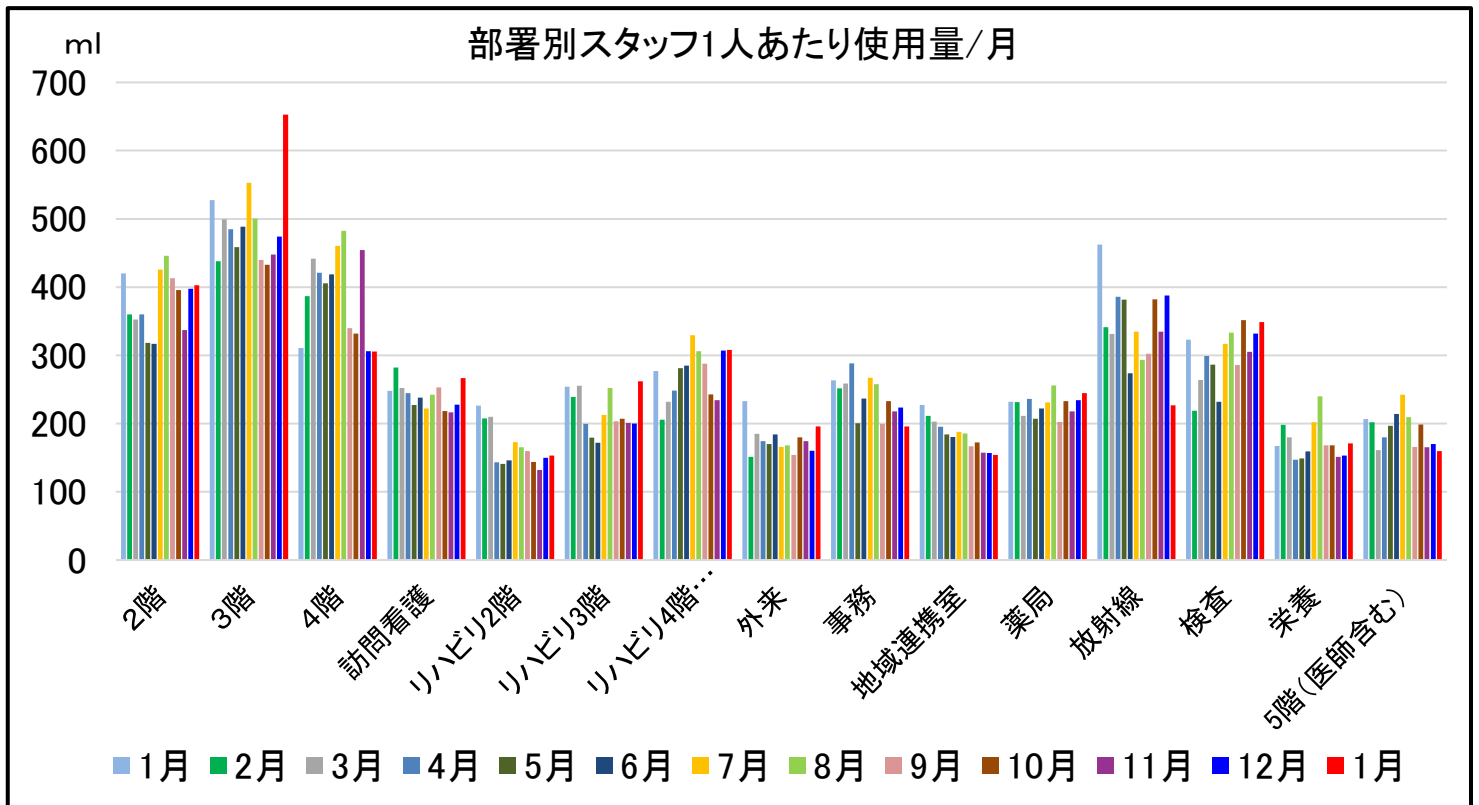
検査結果の見方

脂質抗原法(RPR)	陽性	陰性	陽性	陰性
TP 抗原法(TPHA)	陽性	陰性	陰性	陽性
結果の解釈	感染	感染していない	梅毒初期、擬陽性	治療中、治癒後

## ●磐田市立総合病院感染ラウンド結果

殆どの項目が A 評価であり、教育研修会の出席率(90%以上)、手指衛生向上の取り組み、個人防護具の設置状況、膀胱内留置カテーテル設置場所の取り組み、天井エアコン・吸気口周囲のカビ対策においては高評価でした。指摘されたのは①携帯用針捨てボックスが 8 割以上 ②職員のペットボトルが冷蔵庫内に入れていない ③点滴混注台に経管栄養剤と注入水が置かれているでした。これらは院内ラウンドでも指摘されていることですので、今後も各自の対策実施をお願いします。

# ★2024 年アルコール手指消毒剤使用量報告



※3階病棟での使用量が増加したのはインフルエンザのアウトブレイクが影響したと考えます。その他の部署においても増加傾向にあり冬季感染症への意識が向上したのではないのでしょうか。今後も感染症対策に向けてタイミングよく実施していきましょう！